

# 学会参加奨励金報告書

学籍番号：R22-101

名前：和田愛海

学会名：第 19 回日本診療放射線学教育学会学術集会

開催場所：神戸常磐大学

開催期間：2025 年 8 月 30 日

発表セッション名：「そこまで言ってもいいんかい！ - 令和の学生本音大公開 - 」

発表形態： 学生シンポジウム

発表日時：2025 年 8 月 30 日 13:50～14:50

## 1. 発表の概要

読売テレビ「そこまで言って委員会 NP」をモチーフに、関西 5 校の学生がパネリストとして登壇し、学校生活や授業、国家試験対策、将来への思いなどについて、本音で語り合うトークセッション。

## 2. 質疑応答内容 他

当日は各校が発表した内容に、司会の谷口英明先生が内容を深掘りし、話を広げる形で進んだ。

## 3. 関連発表の内容

他大学・専門学校が取り組んでいる診療放射線技師教育における障害学生支援や多様な学生に対するサポート、MRI・CT シミュレータの活用など、教育に関わる幅広い領域の発表を聞くことができた。

## 4. 学会参加の感想

このたび、神戸常磐大学で開催された「第 19 回日本診療放射線学教育学会学術集会」の学生シンポジウムにおいて、京都医療科学大学の学生代表として参加させていただきました。本シンポジウムでは「学校紹介！うちのここええやろ！」「一押しの授業・実習はこれや！」「みんなどうしてる？国家試験対策」「学生からこれからの診療放射線技師教育に臨むこと」の 4 つのテーマに沿って、各大学がスライドを用いて発表を行いました。発表の冒頭は緊張のあまり硬くなってしましましたが、会場の温かい雰囲気に助けられ、徐々に落ち着いて話すことができました。発表後には、多くの方から「良い発表だった」とお声をかけていただき、喜びとともに自身の成長を実感することができました。これまでゼミ活動で複数名による発表経験はありましたが、今回のように単独での発表は初めてであり、緊張もひとしおでした。しかし、会場の反応も良く、要所で

は笑いも交えることができたため、これまで最も納得のいく発表ができたのではないかと感じています。また、他大学の学生の方々とも交流を持つことができ、大変有意義な時間を過ごすことができました。今回の学術集会は初めて関西で開催され、過去最多となる 215 名の参加がありました。学会会長をはじめ、先生方からも学生シンポジウムが非常に好評であったとのお言葉を頂戴し、貴重な経験をさせていただいたことに感謝の気持ちでいっぱいです。さらに、本発表以外のセッションでは、診療放射線技師教育に携わる先生方による、学生への多様なサポートに関する発表を聞くことができました。日頃からご指導いただいている先生方が、どのような思いで教育に取り組んでおられるか、またどのような課題を抱えているのかを知ることができ、視野が広がるとともに、教育に対する理解も深まりました。中でも特に印象に残ったのは、診療放射線技師教育における障害学生支援に関する発表です。日々の学習や臨床実習、国家試験対策、さらには人間関係に関する課題など、障害学生と教育現場が直面している様々な問題について知ることができました。この発表を通じて、自身の恵まれた学習環境について改めて考える機会にもなりました。今回の学術集会への参加を通して、発表を通じた表現力やコミュニケーション力の向上だけでなく、他大学の学生や教育現場とのつながりを実感し、多くの学びと刺激を得ることができました。この経験を今後の学習や進路に活かしていきたいと考えています。

最後になりましたが、このような貴重な機会を与えてくださいました先生方に、心より御礼申し上げます。

## 6. 現地参加がわかる写真(4枚)

